

三月二十一日

八時半起床。今日は旗日らしい。銅版画に取組もうと考えたがいざ机の前に座つたら気が乗らず中止。こんな時の気持の動き方は自分でも不可解である。昼過まで雑読。十四時過研究室。蔡さん、太田在室。静かだ。

十六時九州よりM君来室。若い建築家の卵達の困難さを想つと、こちらまで辛くなるが仕方無い事だ。建築設計の魅力には魔物が棲んでいるのだ。あんまり気が強くなさそうなM君がそれでも建築デザインを志したいというのは魔物の影響だろう。十七時半佐藤滋先生と新大久保駅前近江屋へ。建築学科教室に於いて相談。

ほぼ意見の一致を得たように思う。二十一時前修了。佐藤先生と別れて、タイ料理屋クンメーにて。社長若松氏と会食。ユーラシア・サイエンス&ビジネス研究所に於いて。夕食を二度というのはハードだがマ、仕方なし。二十二時終了。二十三時世田谷村に戻る。明日は十時に研究室ミーティング。こうやるその両確認を再び。繰り返し繰り返し確認する必要がある。石山研の他にない特質は丹羽君というハンディキャップを負った人間がメディア作りの中心に居る事だ。丹羽君は車椅子生活であんまり仕事は出来ないが、しかしそのあんまり出来ないと言つのを前提にプログラムを組む事が可能であれば、強烈な差異を生み出し得る。そこるところを考えてみたい。山口勝弘先生の今いる状況は丹羽君そのものなのだ。丹羽君はその事を痛切に自覚すべきであろう。勿論してるのだろうが、どうにも体が言つ事をきかぬのだろう。

三月二十二日

どんよりと曇つた朝。丹羽君に先週のHPの数字を出してもらつて、それでミーティングを始める。十時過ミーティング。休み明けは電話が入り過ぎて腰を落着けた話しが不可能だ。十二時迄。途中。研究所の若松氏来室。ユーラシア・サイエンス&ビジネス研究所設立準備室の件。この人の動きは速い。ITビジネスの特徴だな。十八時半小池一子さん来室。二〇時過新大久保駅前近江屋にて柴原と共に会食。二十二時過迄。研究室の特異な人材である柴原を小池さんにあずけるといふデザインが良いかどうかは柴原次第なのだ。女は度胸男は愛嬌の世の中なだから。二十三時前世田谷村に戻る。丹下建三死去の報。何の感慨もないのが自分でも不思議。

三月二十三日

朝、昨夜久し振りに届いた大阪のM氏からの便りに返信を書く。十時四〇分了。広島の本本君からも凶面が届いているがまだ見きれていない。長男雄大地中海のレースより帰る。

昨日のHPカバーコラムに偶然ではあつたが、川合健二再考のページを設けた。これを持って丹下健三追悼の辞とする。

十四時半新木場トモコーポレーション現場竣工検査。コンテナとモービルハウスを大がかりに使用してショーをやつたら面白いだろうな。昨夜の小池一子さんとの話しを思い起こした。十七時修了。広島の本本君よりSteeleのたるいもの葉送られてきていた。良い努力をしているが、ここまで努力してくれるのなら、本格的なレベルと思われるものを本本君には要求してみようかと思つ。要求する私にだつて勿論何かの圧力(ストレス)はかかるのは当然であるのだから、やるんなら中途半端は避けたい。